

ふるさとの年中行事

お月見

月を眺めて稲の豊作を祈願

旧暦
8月15日



九月二十五日、旧暦の八月十五日のお月見の日、おだんごやお餅、ススキ、サトイモなどをお供えて月を眺めます。お月見をするのは、稲刈りをするまでの手のあく時期に、稲の豊作を祈る祭りを行なったことが始まりとされていますが、正確な起源は明確ではありません。「お月見」の日本で最初の記録は、九〇九年の醍醐天皇の記録があります。それ以降は、高級貴族たちだけの風習でしたが、江戸時代になると一般庶民にも広まり、ポピュラーな行事となりました。

昔は、旧暦七・八・九月（現在の八・九・十月頃）を「秋」とし、七月を孟秋（孟ははじめ）、八月を仲秋（仲は中間）、九月を季秋（季は末）と呼んでいました。そのため、八月を指す場合は「仲秋」、八月十五日のみを指す場合は「中秋」と書き分けています。



市内では、秋の七草の、ききょう・かるかや・おみなえしなどを容器に入れ、栗・さつまいも・赤飯などを供えて、豊作を祈りました。上稲吉地区では、里芋の茎を芯にして藁で包み、縄で巻いたものを持って、子供たちが庭で「十五夜お月の藁鉄砲」と叫びながら地面を叩く行事が行なわれていたそうです。また、この晩に晴れば、小麦が豊作になるといふ言い伝えもあります。

学校だより

環境にやさしいお手本校 = 佐賀小学校

環境問題が大きな社会問題となっている昨今、本校では、以前より総合的な学習の時間を利用して環境学習に積極的に取り組んできました。

地域や家庭において、4Rを実践できる児童の育成を目指しています。

- R=リサイクル（再利用）
- R=リユース（再使用）
- R=リデュース（ゴミ減量）
- R=リフューズ（購入拒否）



▲霞ヶ浦湖岸にアサザを植える3・4年生

※平成18年度には、県の「環境教育プログラム」の開発・制作をし、平成20年度に環境教育について発表する予定です。

自然とやさしいお付き合い

1・2年生

「身近な自然に親しみ、いろいろな生き物にふれる」

- ・学校近くの森林公園や水族館の見学、学校の周りを散歩（写真）
- ・春には、草花で遊んだり、雑草の中に咲いた花やダンゴムシ、虫の幼虫を探索
- ・秋には、落ち葉や小さな木の実を拾い思い思いに画用紙に貼って絵を作成



3・4年生

「自然体験を通じて、自然の不思議さや驚きを知る」

- ・学校のプール隣にあるピオトープの観察や虫の採集（オタマジャクシ、ヤゴ、コオイムシなど）
- ・霞ヶ浦湖岸の崎浜にアサザを植栽
- ・ヨシの周りを網で生き物すくい
- ・佐賀大運動会でお年寄りの方々にプレゼントするランコエの苗作り（写真）



5・6年生

「自然体験活動を通して環境保全について取り組む」

- ・学校水田での稲作
- ・1人一鉢菊作り
- ・漁業についての学習（写真）
- ・霞ヶ浦環境科学センターでの水質浄化の実験や検査

＜“アサザ”って何？＞
アサザは大きな群れになって、強い波をやわらげる役割を持っています。すると、湖に砂浜や浅瀬ができ、やがて植物が育ち、虫や鳥たちが帰ってきます。アサザは、生き物が安心して暮らせるゆりかご作りに必要な植物なのです。



樽井真吾君の 平成19年霞ヶ浦水質浄化標語

「ざりがに さかな どじょうにたにし みんなともだち きれいなみずうみ」

文芸ひろば

俳句

短歌

凌霄花一瞬耐えて落ちにけり 榊原清志（稲吉）
 白髪に鉢巻きりり山車を引く 桜井愛子（中志筑）
 夏遍路絵図をたよりに歩みけり 成島利男（下稲吉）
 蓮の葉の裏を返して遠筑波 大塚隼人（新治）
 巻戻すテープも歪む極暑かな 車田きみ（大和田）
 手花火を廻しおどける男の子 福田宏通（御殿）
 手花火の負けぬ気ばつちり大火玉 松葉ふみ（内加茂）
 垣に来てねずみ花火の息閉する 大橋俊彦（足立区）

運命知るや黄ばみ葉は舞う竹の秋ここを先途と掃き終えし庭に 中根美子（下土田）
 懐かしく想い出さるる故里の廃車となりしさびたる線路 橋本とし（粟田）
 忘れたるざるの玉葱芽の立ちぬ厨辺に活け春を楽しむ 畑百合子（上佐谷）
 うすべにの芍薬ひと日風に耐へ暮れなつむ庭に頭をたれにけり 的場トシ子（上土田）
 ほのぼのと香る新茶で誕生日同じ五月の妻と祝へり 鈴木春雄（戸崎）
 薔薇の花野草の花々取り混ぜて酵素風呂よと今宵は洒落ぬ 小貫弘子（牛渡）
 母の日に「プーマ」の靴のプレゼント八十二才GBを楽しむ 飯島ヒロエ（三ツ木）
 捨てられても咲く大根の花清し朽ちる命のたましいの色 前嶋武（上土田）
 頼もしき強き力をみどり児はこぶしにこめて寝返りを打つ 川原場好子（上佐谷）